

あとがき

昭和二十五年本学国文科創設以来、専任教授として教育と研究の中心であった阿部俊子先生が、本年度末をもって定年で退かれることになった。この日の近いことは数年前から分っていたが、私どもはそのことに気付かぬふりをし、この日の一日でも遅からんことをひそかに願っていた。しかし、その願いは空しく、ついに先生との別れの日を迎えねばならなくなった。今、寂寥の思い切なるものがある。

思えば、昭和四十六年四月本学に始めて国語国文学会が設立されたのは、主任教授阿部俊子先生のすぐれた構想と決断とによるものであった。爾来七年、学会は学術講演会と学会誌発行とを經に、会報の発行と、観劇と文学散歩の「さわらび会」の活動とを緯として、順調に成長しつつある。それはひとえに、会長阿部俊子先生を軸とする全会員の和によるものである。

阿部先生の定年御退職にあたり、私どもは学会誌第七号を記念号とすることに決し、同時にまた会報も記念特集を組むこととし、本学国文科に教鞭をとって下さった先生方皆様に、学会誌への御論考と会報への随想をお願いした。私どもの不躰なお願ひにもかかわらず御繁忙の先生方がこぞって御快諾下さったことに、衷心より深謝申し上げる。

先生方の随想などを収めた会報は、本年四月二日に開催される「国文学専攻創設二十五周年を祝う会」の報告を収録するために発行が遅れることをおことわりしておきたい。

阿部先生とのお別れは無量に寂しい。先生の退かれたあとにあいた穴は私どもでは埋めようがない。しかし私どもは前進してゆかねばならない。先生に聞いていただいた学会活動の場を一層充実発展させてゆくことが、先生の限りない学恩に報いる道でもある。学会活動のシンボルであるこの「国語国文論集」がいよいよ充実しつつ号を重ねてゆくことを期して、今後ますます会員の皆さんの御協力をお願いする。

(小野 寛)